

## 6 環境の保全と創造のための基盤づくり

### 6 - 1 環境情報の総合的な収集・提供体制の確立

#### 1 環境情報センター(私学・科学振興課)

富士山科学研究所の環境情報センターは、富士山の自然や地域の環境についての情報を提供しています。

本センターでは、自然科学・環境に関する図書・DVD等を年々充実させていることに加え、富士山に関する資料の充実を図っています。さらに「News Letter」「メールマガジン」の発行等により、研究所の各種活動の紹介も行っています。



環境情報センター

#### 環境情報センター施設概要

閲覧時間 午前9時～午後5時(休館日:12月～3月の月曜日(祝日を除く))

年末年始・蔵書点検期間・電気設備点検・雪による臨時休館)

図書閲覧コーナー 図書の閲覧、調査研究ができます。図書は館外貸出も受けられます。また、直接来所しなくても、最寄りの図書館を通して研究所の資料の検索・貸出ができます。

DVD(ビデオ)コーナー 自然環境に関するDVD等を視聴ができます。

パソコンコーナー 自然環境情報の検索ができます。

バードウォッチングコーナー・ブラウジングコーナー 野鳥の観察や、雑誌の閲覧ができます。



平成27年度発行「ニューズレター」

環境情報センター蔵書数等 (H28.3.31現在)				平成27年度利用実績			
図書	和書	一般書	13,430 冊	環境情報センター利用者数	5,069 人		
		児童書	4,126 冊	図書個人貸出	人数	581 人	
		参考図書	2,033 冊		図書貸出数	1,625 冊	
		富士山図書	706 冊		AV貸出数	92 本	
		行政図書	599 冊	図書相互貸出	貸出	件数	1 件
		小計	20,894 冊			冊数	1 冊
	洋書	513 冊	借受	件数	4 件		
合計	21,407 冊	冊数		5 冊			
AV資料	ビデオ	584 点	図書団体貸出	件数	6 件		
	DVD (ROM・ビデオ)	226 点	冊数	167 冊			
	CD-ROM	333 点	AV利用	人数	88 人		
	合計	1,143 点		本数	45 本		
逐次刊行物	和雑誌	一般雑誌	81 タイトル	レファレンス(調査相談)	74 件		
		学術雑誌	103 タイトル	(CD-ROM利用:H22.9に終了)			
		紀要	207 タイトル	新学習用PC「しえん君」 利用人数(H22.10から提供)	276 人		
		行政資料	256 タイトル				
		小計	647 タイトル				
	洋雑誌	152 タイトル					
	合計	799 タイトル					
その他	地図等	173 点					

なお、環境教室等の参加者を含む富士山科学研究所全体の来館者数は次のとおりです。

区分	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	計
一般	3,865人	6,641人	3,425人	2,893人	16,824人
団体	8,678人	5,550人	5,178人	272人	19,678人
計	12,543人	12,191人	8,603人	3,165人	36,502人

注)一般＝個人・家族等、団体＝学校・各種団体等(事前に連絡のない学校・各集団体のグループを含む)

## 2 提供体制の確立(森林環境総務課)

### (1) 県ホームページ

県では、環境保全活動を広めていくため、県ホームページにおいて、「やまなしの森林・環境」のページを開設し広く情報提供しています。当該ページは、「やまなしの森林」「やまなしの環境」「やまなし水政策ビジョン」の3つのジャンルで構成されています。

## 『やまなしの森林』

山梨県の森林・林業に関する計画・イベント情報など、次の項目ごとに構成しています。

### やまなし森林・林業振興ビジョン

森林資源の更なる利活用をはじめ、森林資源を多岐にわたって活用する施策展開による林業・木材産業等の成長産業化と地域の活性化など本県の森林や林業・木材産業の振興を目指し平成27年12月に策定した、「やまなし森林・林業振興ビジョン」を紹介しています。

### リーフレット「やまなしの森林」

山梨県の森林・林業・木材産業の概要を紹介するリーフレット「やまなしの森林」を掲載しています。

### 関連する計画等

山梨県が定めた森林に関連する計画や方針等を紹介しています。

- ・地域森林計画
- ・県有林管理計画
- ・森林セラピー推進指針
- ・山梨県緑化計画

### やまなし森のイベント情報

「森林環境教育」や「木育」など森に関するさまざまなイベントを紹介しています。

### 森林公園だより（県民の森、武田の杜、金川の森）

森林と親んでもらう森林公園の紹介と活動を紹介します。

### 森林文化の森

人と森林との関わり合いを実現する場所、自然への回帰を目指す場所として整備計画をまとめました。

「森林文化の森」というものが、何を目的とし、何をしているのかをお伝えしています。

### やまなし森づくりコミッション

森づくり活動フィールド・森林づくりイベント・指導者などの紹介や、活動計画や企画の提案など、森づくり活動を様々な形で支援します。

### 山の日宣言

8月8日は、やまなし「山の日」。「山の日宣言」の全文や、各種記念イベントの情報を提供しています。

### FSC森林管理認証

県有林は、持続可能な森林経営をさらに推進していくためにFSC森林管理認証を取得、その取組を紹介します。

### 山梨県森林審議会

「山梨県森林審議会」の会議録を公表しています。

### 恩賜林について

3月11日は恩賜林記念日。恩賜林の沿革や恩賜林記念式典などを紹介しています。

### 林業・木材産業情報リンク集

林業・木材産業に関するリンク集です。

### 山梨県林業統計書

山梨県の林業統計データを掲載しています。

## 『やまなしの環境』

山梨県の環境計画、対策や、環境団体等の情報など次の項目ごとに構成しています。

## 山梨環境基本条例

平成16年4月1日に施行した「山梨県環境基本条例」です。

## 山梨県環境基本計画

「山梨県環境基本条例」で定めた環境の保全及び創造に関する施策の方向等を明らかにした、環境施策に関する基本計画です(平成26年3月、「第2次山梨県環境基本計画」を策定しました)。

## 関連する計画等

山梨県が定めた環境に関連する計画や方針等を紹介しています。

・山梨県地球温暖化対策実行計画 ・山梨県生活排水処理施設整備構想 ・第2次山梨県廃棄物総合計画  
リサイクル・廃棄物処理

山梨県廃棄物処理計画、廃棄物最終処分場、一般廃棄物、産業廃棄物、PCB廃棄物などに関する情報です。

## 大気・水質

大気常時監視、植物影響調査、公共用水域水質測定及び水生生物による水質調査結果について紹介しています。

## 山梨版レッドデータブック

山梨県レッドデータを紹介しています。

## 環境アセスメント

大規模な事業実施が周囲の環境にどのように影響を及ぼすのかについて、事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して、県民や市町村長等が意見を出し合い、環境を守っていく制度です。

## 富士山の環境保全

富士山の環境を理解し、保護していくための各種活動に関する情報収集・提供やコーディネート、活動に参加する人々のネットワーク化などに取り組む、富士山ボランティアセンターのご案内です。

## 地球温暖化対策

平成20年12月に策定した「山梨県地球温暖化対策条例」を紹介しています。

## 環境保全審議会

「環境保全審議会」の会議録等を公表しています。

## やまなし環境マネジメントシステム

山梨県の環境マネジメントシステムです。

## 環境白書「やまなしの環境」

山梨県における環境の現状とその保全に向けた対策をまとめた環境白書「やまなしの環境」(本書)の各年度版を紹介しています。

## 環境NPO・団体等の情報

「やまなしNPO情報ネット」では、県内の活動しているボランティア・NPOの情報などを提供しています。

## 環境関係例規集

山梨県の環境に関する条例等を掲載した総合サイトです。

## 『やまなし水政策ビジョン』

本県の水政策に関する総合的な指針である「やまなし水政策ビジョン」を掲載しています。

## やまなし水政策ビジョン

「持続可能な水循環社会を目指して」を政策目標として定め、この目標を実現するために、「育水と保全～健全な水循環の維持～」、「魅力発信と活用～水を活かした地域・産業の振興～」、「連携と相互理解～水を通じた交流の活性化～」、「暮らしと防災～安全な水の確保と暮らしを守る治水の推進～」の4つの基本方針に基づき、健全な水循環系の構築と水を活かした地域振興を図るための指針として、平成25年6月に策定しました(従来の「山梨県水政策基本方針」は、「やまなし水政策ビジョン」の内容として引き継がれました)。

## (2) 環境情報提供事業(環境ライブラリー事業)(森林環境総務課)

県民が環境問題に関心を持ち、実践活動に参加し、環境に配慮した生活スタイルへの転換が進むよう、「環境情報コーナー」の設置、パネルやビデオテープの貸出しなど「ライブラリー事業」を実施しています。

内容(平成27年度実施内容)

- ・パネル等の貸出し
- ・移動情報コーナー(パネル、環境にやさしい商品等の展示)
- ・ビデオライブラリー
- ・パンフレットの提供

## 6 - 2 環境モニタリング・環境科学研究の推進

### 1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

#### (1) 大気汚染常時監視

「大気汚染防止法」に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局10局及び自動車排出ガス測定局2局の合計12局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視している。

また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について5地点においてモニタリング調査を実施している。

#### (2) 公共用水域及び地下水の水質の常時監視

河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、53地点においてBOD、CODなどの環境基準項目等の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するためモニタリング調査を実施する。

#### (3) ダイオキシン類の調査

ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気3地点、公共用水域8地点、地下水9地点、土壌中7地点の調査を実施(平成27年度)。

#### (4) 騒音・振動の調査

幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。

#### (5) 地盤沈下の調査

地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「2 安心・安全で快適な生活環境づくり」及び資料編に掲載しました。

## 2 富士山科学研究の推進

### (1) 富士山科学研究所の取り組み(私学・科学振興課)

富士山科学研究所は、日本のシンボル・富士山に様々な角度から光を当て、世界共有の財産として“守

り”、“活かす”ための方策を科学的に追求しています。平成9年に開所した山梨県環境科学研究所で積み重ねた研究の成果に根ざし、さらに富士山の知を集積し、その情報・成果を発信しています。

研究活動は、「自然環境研究部」、「環境共生研究部」及び「火山防災研究部」の各研究部門において、富士山の自然特性の解明と保存管理や人と自然が調和した地域の実現と富士山の適正利用、富士山防災対策などの研究に取り組む「富士山研究」、研究者が地域環境について基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに総合理工学研究機構が統括する領域横断的な共同研究や緊急性の高い行政課題に対応するために取り組む「特別研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

区分	研究テーマ	研究期間
富士山研究	リモートセンシングと地上探査を用いた富士山森林限界の広域的構造と動態に関する研究	H 24 ~ 28
	環境の変化が急性高山病に及ぼす影響及び急性高山病と血液生化学的指標との関連	H 26 ~ 28
	急性高山病の要因を脳循環応答の面から検討する～富士登山の安全確立に向けて～	H 25 ~ 27
	富士山火山防災のための火山学的研究 - 噴火履歴とそのシミュレーション -	H 26 ~ 29
	富士山周辺の観光資源に対するステークホルダーの価値評価に基づく保護と利用のための体制整備の提示	H 27 ~ 28
	富士山の火山噴出物に関するデータベースの構築	H 27 ~ 29
	富士山周辺における侵略的外来植物の広域分布推定に関する研究	H 27 ~ 29
基盤研究	富士北麓の蝶類群集の定量的モニタリングによる温暖化影響と衰退種特性の解明	H 24 ~ 28
	バナジウムの中性脂肪増加抑制作用を安全に効率よく利用するための基礎的研究	H 25 ~ 27
	地域特性を考慮した自然公園の空間的利用区分に関する研究	H 24 ~ 27
	富士五湖・湖底堆積物の有機地球化学分析による自然環境変遷史の復元	H 25 ~ 27
	富士山五合目付近の外来植物の分布の現状把握に関する研究	H 26 ~ 27
	山梨県における富士山への視点場の研究	H 26 ~ 28
	富士山周辺における非熟練ボランティアの野外活動の安全確保に関する研究	H 26 ~ 28
	富士北麓地域における災害履歴とその住民の対応～近世文書・聞き取り調査のデータベース化	H 27 ~ 29
	衛星データを用いた富士山周辺の土地被覆変化把握に関する研究	H 27 ~ 29
	高所登山時に見られる低酸素・脱水状態が低温環境にさらされた時の生体反応に与える影響に関する研究	H 27 ~ 29
	富士山の古地磁気を用いた溶岩噴出年代の決定	H 27 ~ 29
	富士山の環境保全を目的とした環境教育プログラムの構築	H 27 ~ 28
富士山麓の草原・森林移行帯における種の分布と生育地特性に関する研究	H 27 ~ 29	
特別研究	富士山におけるニホンジカの個体群動態と個体数管理に向けた行動学的特性	H 25 ~ 27
	富士五湖(特に河口湖)の水質浄化に関する研究 - 湖底堆積物の物理的および科学的性状の把握 -	H 25 ~ 27
	山梨のジオ情報を活用した地域環境特性に関する研究	H 24 ~ 28
	山梨県の山間地域における定住の状態と環境変化の関連の総合的な研究	H 24 ~ 27
	新たな知見、技術を活用する緑の現況調査、緑化計画と緑化事業の総合的研究	H 25 ~ 27
	富士北麓水資源の保全と活用のための水文学的研究	H 25 ~ 28
	雪崩発生条件の解明と観測機器の開発	H 26 ~ 28

(2) 森林総合研究所(森林環境総務課)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を行うとともに、再生可能資源である木材やきこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組むなど、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研究テーマ	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	育林・育種	カラマツコンテナ苗の生産手法の確立	H26～29
		希少植物等の遺伝資源の増殖・保存技術の確立	H26～30
		育林省力化のための低コスト下刈り方法の開発	H27～31
		施業林の追跡調査と広葉樹の種特性解明に基づく広葉樹林施業技術指針の作成	H27～31
森林環境保全技術の確立	森林保護	ニホンジカの新しい捕獲技術の適用性試験と改良	H25～28
		日本各地でのシカによる植生への影響度を決定する要因の解明	H26～28
		ニホンジカに関するモニタリングの効率化・高精度化に関する研究	H27～30
	環境保全	ニホンジカ影響下における針葉樹人工林の針広混交林への転換技術の開発	H24～27
		持続的な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発	H25～29
		レンゲツツジなどにより構成される半自然草原群落の保全管理手法の検討 甘利山における事例研究	H26～28
		「高山に登るニホンジカ」にどのように対処するか？	H25～27
		森林公園や別荘地における保健休養機能の向上に資する森林整備に関する研究	H27～29
森林資源活用による活性化	特用林産	新バイオマーカーを利用した山梨県の有用植物等資源の探索と活用	H26～28
		甘草の栽培方法に関する研究	H27～29
	木材加工	山梨県産スギ材から製造したCLTラミナの材質特性の解明	H26～28
		県産スギ厚板を利用した実用性に優れた炲ぎ合せ材料の製造	H26～28
		山梨県産スギ平角材の強度性能評価	H27～29
	経営機械	木質燃料の品質等に関する課題の解決	H26～28
		放置竹林を利用したイノシシの誘導・捕獲に関する研究	H26～28
		ユビキタス技術・ビッグデータを用いた林業労働の安全化・効率化に関する基礎的研究	H26～27
		現場ニーズに対応した新たな森林GIS基礎データ・主題図の作成手法開発	H27～29
	その他	富士スバルライン沿線緑化試験	S45～
県有林モニタリング事業		H19～	
松くい虫発生予察事業		S61～	
トウヒツツリハマキ発生予察事業		H14～	
カシノナガキクイムシ生息状況モニタリング		H24～	
害虫ヤノミガタチビタムシの環境を利用した被害軽減		H25～28	
森林環境税モニタリング調査		H25～	

## (3) 衛生環境研究所(衛生業務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
PM2.5の短期的/長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明	H25～27
山梨県のPM2.5による汚染状況に関する研究	H28～30
「音色の目安」作り	H25～27
気象レーダーを用いた富士北麓地域での降水量の推定	H25～27
県内のスギ、ヒノキ花粉の飛散状況に関する調査	H26～
市街地を中心とする蚊類の発生状況調査	H26～
関東地方浮遊粒子状物質共同調査	H26～
県内水環境における外来底生生物調査	H26～
富士五湖の水質環境の経年変化について	H26～27
県内水環境における病原性自由生活アメーバの感染リスク評価	H26～27
山梨県内河川の付着珪藻群集組成からみた水質判定	H26～27
山梨県内の環境水中における有機フッ素化合物の追跡調査	H27
増富温泉のラドン経時変化	H28
県内土壌中の放射性物質濃度の実態調査	H27～28
クニマスの保全並びに活用に関する研究	H27～29
富士五湖における水生植物調査	H27～29
葉状地衣類の生息環境調査	H28～29
河口湖周辺源泉における温泉資源動向調査	H28～29
県内の希少水生昆虫生息調査	H28～30

## (4) 工業技術センター(企業立地・支援課)

工業技術センターは、県内企業の技術の高度化を支援し、その振興を図るため、研究開発、技術相談、依頼試験、講習会の開催、情報の提供などを行っています。環境問題については、公害発生防止など、企業の環境保全活動を支援するための巡回支援や技術相談対応、また環境負荷の少ないクリーンエネルギーに関する研究にも積極的に取り組んでいます。



試験研究機関	研究テーマ	期間
工業技術センター	県内の未利用バイオマスを利用した機能性材料の合成と評価	H28～30
	光触媒を利用した水素製造技術に関する研究	H28～30
富士工業技術センター	3d遷移金属錯体の混合媒染効果に関する研究	H27～28

## (5) 農業関係試験研究機関

### ア 総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、有機性資源の有効利用を目的に家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため化学農薬・肥料を使用しない野菜類の有機栽培の実証を行うとともに、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、生物農薬の有効性の確認や有効かつ効率的な病虫害防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性及び農薬の適正使用に関する調査も行っています。

### イ 果樹試験場(農業技術課)

果樹の減農薬栽培技術として、耕種的・物理的防除、生物農薬、フェロモン剤等の化学合成農薬代替資材および天敵を用いた総合的な病虫害防除法に関する試験研究を行っています。

また、家畜ふん堆肥を中心とした有機物主体による環境負荷低減型施肥法について研究を行っています。

### ウ 畜産試験場(農業技術課)

豚、鶏に関して、生産性・効率性を高める高品質安定生産技術、環境と調和した自然循環機能を活かした農業生産方式(糞尿の堆肥化時の悪臭低減技術など)確立のための研究を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
総合農業技術センター	栄養調整飼料の給与から得られた堆肥の施用効果	H26～28
	県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
	有機物連用土壌における地力窒素の評価	S54～
	野菜の有機栽培に適した耕種的管理技術の確立	H26～30
	環境保全型農業における病虫害防除技術の確立	H27～29
	新農薬の効果査定	S54～
果樹試験場	果樹園における有機物資材を主体とした施肥法の開発	H27～29
	省力・環境負荷低減型防除技術の開発	H22～28
畜産試験場	豚ふん尿由来の環境負荷低減技術の確立	H25～28
	乳酸菌製剤等を活用した豚ふん臭気及び環境負荷低減に関する研究	H26～28

### エ 水産技術センター(花き農水産課)

魚類生息環境の保全に関する試験研究調査や希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
水産技術センター	カワウ対策に関する研究	H25～27
	クニマスの保全及び活用に関する研究	H27～29
	希少魚類生息調査	H13～28

### 6 - 3 国際協力の推進

#### 1 国際環境交流事業

富士山科学研究所は、本県の将来を見据え、予見・予防的な視点に立った環境行政の展開を支援することを基本姿勢として、「研究」「教育」「情報」「交流」の各機能を通じて、自然と人との生活が調和した地域の実現に向けて事業を展開しています。「交流」においては、富士山・環境をテーマとして人や情報の交流を活発にするため、県民の方々や地域との交流、国内外の研究者、研究機関との交流機会等を提供しており、平成27年度には山梨県富士山科学研究所公開講座として国際シンポジウムと国際ワークショップを開催しました。

##### (1) 国際シンポジウム

開催日 平成27年11月6日  
 テーマ 「火山地域の観光と防災」  
 開催場所 富士吉田市民会館 小ホール  
 内容

富士山周辺は、居住人口約70万人を抱え、観光客も年間3000万人(登山客:年間30万人)が訪れる日本でも有数の観光地です。ひとたび大規模噴火が発生した場合にはこれらの人々の迅速な避難を実施することが必要となります。特に観光客については今後急激な増加も見込まれることから、噴火災害及び避難計画について理解や啓発を促進することが喫緊の課題となっています。また、このような事態に対処するためには住居者ならびに観光事業者など関係者の協力が必要です。これまでの国内、海外での事例をもとにこれらの課題への対応を考える機会としました。

##### 1)2014～2015 ハワイ・パホア町溶岩流危機での災害予測とコミュニケーション

ハワイ火山観測所 James Kauahikaua

##### 2)箱根山噴火～2015年噴火と観光への影響

神奈川県温泉地学研究所 萬年 一剛

##### 3)富士山に訪れる観光客、登山者に対する火山噴火対策について

富士吉田市富士山火山対策室 渡辺 岳文

##### 4)インドネシアにおける火山観光の可能性と諸問題

インドネシア ガジャマダ大学 Agung Harijoko

(パネルディスカッション)

パネリスト

Agung Harijoko (ガジヤマダ大学)  
Estuning Tyas Wulan Mei (ガジヤマダ大学)  
Wiwit Suryanto (ガジヤマダ大学)  
James Kauahikaua (ハワイ火山観測所)  
萬年 一剛 (神奈川県温泉地学研究所)  
渡辺 岳文 (富士吉田市富士山火山対策室)

(2) 国際ワークショップ 2015

開催日 平成 27 年 11 月 7 日 ~ 11 月 8 日

テーマ 「火山地域の観光と防災」

内容

富士山周辺は、居住人口約 70 万人を抱え、観光客も年間 3000 万人(登山客:年間 30 万人)が訪れる日本でも有数の観光地です。ひとたび大規模噴火が発生した場合にはこれらの人々の迅速な避難を実施することが必要となります。特に観光客については今後急激な増加も見込まれることから、噴火災害及び避難計画について理解や啓発を促進することが喫緊の課題となっています。このような事態に資するため、国内外の事例をもとに討論を行いました。

第 1 部 火山地域の観光と防災についての現状と課題(11月7日)

「チリにおける最近の噴火:危機管理と観光に対する影響」

南アンデス火山観測所 Hugo Moreno

「メラピ火山:火山地域での観光業と危機管理を連携させる」

ガジヤマダ大学 Estuning Tyas Wulan Mei

「箱根火山災害と観光産業」

田むら銀かつ亭 田村 洋一

「雲仙普賢岳における観光と防災」

いわて復興応援隊 三陸ジオパーク推進協議会事務局 杉本 伸一

第 2 部 来訪者への火山防災情報の発信(11月8日)

「イタリア、エトナ山の噴火活動:航空・公民保護局支援の科学技術的な進化」

イタリア国立地球物理火山学研究所 Simona Scollo

「富士山火山防災対策への取り組み」

山梨県総務部 防災対策専門監 山下 憲美

「気象庁における火山の観測・監視と情報提供について」

気象庁 地震火山部 土井 恵治

「火山における防災・減災報道の課題」

NHK 解説委員 二宮 徹

「災害誘導対策及び自助・共助の高揚の促進について」

山梨県警察本部警備部 野中 卓志

「火山教育ツーリズムのために我々は地球物理データから何を学ぶことができるのか？」

ガジヤマダ大学 Wiwit Suryanto

「2014～2015 ハワイ・パホア町溶岩流危機での災害予測とコミュニケーション」

ハワイ火山観測所 James Kauahikaua

### 第3部 パネルディスカッション～観光地としての火山地域への提言～(11月8日)

#### パネリスト

Hugo Moreno(南アンデス火山観測所)

James Kauahikaua(ハワイ火山観測所)

Simona Scollo(イタリア国立地球物理火山学研究所)

Agung Harijoko(ガジヤマダ大学)

二宮 徹(NHK 解説委員)

藤井 敏嗣(山梨県富士山科学研究所)